

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育原理		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西本 佳代
授業の概要				
初めに教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史的変遷について学び今日の教育に関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。これらのことを踏まえて現代の生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。				
授業終了時の到達目標				
教育の意義と目的及び子ども家庭福祉等との関わりについての理解。 教育の思想と歴史を学ぶ。 教育の制度や取組について理解。 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解。				
回	テーマ	内 容		
1～5	教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関連性	教育の意義、目的 教育と子ども家庭福祉の関連性		
6～8	教育の思想と歴史的変換	諸外国、日本の教育の思想と歴史 子ども観と教育観の変遷		
9～11	教育の制度	教育制度、教育法規・教育行政の基礎 諸外国の教育制度		
12～13	教育の実践	教育実践の基礎理論 教育実践の多様な取り組み		
14～15	生涯学習社会における教育の現状と課題	生涯学習社会と教育 現代の教育課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育原理		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前に自分が考える教育の必要性を考えておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会福祉		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子(実務経験有)
授業の概要				
<p>現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。更に、共生社会の実現と障害者施策について学びを深める。これらの学びを踏まえて社会福祉の動向と課題について考察をする。</p> <p>【実務経験】 尾崎 桃子：社会福祉士・介護福祉士として5年勤務 現場経験を活かして、社会福祉の制度について伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育者に求められる社会福祉に関する基本的な知識を習得する。 さらに、生活者としての視点で、現代社会における諸問題とそれに対応する社会福祉の意義と役割を理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	社会福祉の理念と歴史的変遷	社会福祉の概念、理念 社会福祉の歴史的変遷		
2	子ども家庭支援と社会福祉	子どもの最善に利益を尊重する子ども家庭支援 保育所等保育施設を中心とした子ども家庭支援		
3	社会福祉の制度と法体系	社会福祉における法律と制度 法制度の種類と具体的内容		
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	社会福祉行政の体制、福祉の財政 社会福祉施設とは		
5	社会福祉の専門職	社会福祉に関する資格について 児童福祉施設に配置される専門職		
6	社会保障および関連制度の概要	社会保障制度とは 子育て世帯の現状		
7	相談援助の理論	相談援助理論の体系化 保育所・児童福祉施設における相談		
8	相談援助の意義と機能	相談援助の特徴、原則、意義と機能		
9	相談援助の対象と過程	保育における相談援助 相談援助の過程		
10	相談援助の方法と技術	保育現場における相談援助の方法と技術の理解		
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	権利擁護と苦情解決 成年後見制度、日常生活自立支援事業等		
12	少子高齢化社会における子育て支援	人口動態と少子化の現状 少子化対策について		
13	共生社会の実現と障害者施策	障害のとらえ方、現状 障害者福祉の展開		
14	在宅福祉・地域福祉の推進	地域福祉の概念 関係機関との連携・ネットワーク		
15	諸外国の社会福祉の動向	社会福祉と福祉国家		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会福祉		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前に「社会福祉」の領域について自分の考えをまとめておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護 I		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子(実務経験有)
授業の概要				
<p>社会的養護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。</p> <p>【実務経験】 尾崎 桃子：社会福祉士・介護福祉士として5年勤務 現場経験を活かして、社会福祉の制度について伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1~2	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷	社会的養護の理念と概念 社会的養護の歴史的変遷		
3~5	社会的養護の基本	子どもの人権擁護と社会的養護 社会的養護の基本原則 保育士等の倫理と責務		
6~8	社会的養護の制度と実施体系	社会的養護の制度と法体系 社会的養護の仕組みと実施体系		
9~12	社会的養護の対象・形態・専門職	社会的養護の対象、専門職 家庭養護と施設養護		
13~15	社会的養護の現状と課題	社会的養護に関する社会的状況 施設等の運営管理 被措置児童等の虐待防止		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会的養護 I		総合評価	100.0%	【準備学習】 子どもの権利、児童憲章などに目を通しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育者論		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	濱野 茂雄
授業の概要				
<p>保育者の役割・職務内容と倫理について理解する。児童福祉法における保育士の定義を理解した上で、保育士の専門性について考察する。 また、保育者の連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ。 更に、組織とリーダーシップについて学びを深める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育者の役割と倫理について理解する。 保育者・教育者の制度的な位置づけを理解し、専門性について考察し理解する。 保育者の連携・協働について理解する。 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	保育者の役割・職務内容	保育士、幼稚園教諭の専門性と役割、職務内容 保育者の役割と職務内容		
2	保育者の倫理	専門的倫理と法律 倫理綱領とは		
3	保育者の資格と責務	保育士の定義、資格とその要件 幼稚園教諭の職務、資格とその要件		
4	保育者の資質・能力	保育士、幼稚園教諭に求められる資質・能力 仕事をする上で必要な資質・能力		
5	養護および教育の一体的展開	保育所保育における「養護」と「教育」 幼稚園の「教育」 子どもの日常生活、遊びの場面における保育士のかかわりと援助		
6	家庭との連携と保護者に対する支援	家庭との連携 保育所等における子育て支援 保護者に対する子育て支援		
7	計画に基づく保育の実践と省察・評価	保育の計画、実践、省察、評価 指導計画作成上の基本的事項		
8	保育の質の向上	集団での保育について 評価の実施について		
9	保育における職員間の連携・協働	保育における職員間の連携 ドキュメンテーションと評価、協働		
10	専門職間および専門機関との連携・協働	専門職間、専門機関の連携協働		
11	地域社会との連携・協働	子どもを取り巻く社会 保育における地域との連携		
12	関係機関等との連携	地域型保育事業の概要 家庭的保育について		
13	資質向上に関する組織的取組	資質向上とは 園内研修について		
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義	保育者としての専門性の向上 保育士のキャリアパスと専門的成長		
15	保育におけるリーダーシップ	保育所保育指針における職員の資質向上の基本 保育におけるリーダーシップの基盤		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育者論		総合評価	100.0%	【準備学習】 保育者の役割について自分なりの考えをまとめておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの理解と援助		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	山北 泰子(実務経験有)
授業の概要				
<p>保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。また、子どもを理解するための具体的な方法や、理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</p> <p>【実務経験】 山北 泰子： 幼稚園教諭として20年勤務 副園長4年 園長4年 現場経験を活かして 幼児理解と援助方法について伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法を理解する。 保育士の援助や態度の基本について理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	子どもの理解の意義 理解に基づく養護及び教育の一体的展開 共感的理解と子どもとの関わり		
2~4	子どもを理解する視点	こどもの生活や遊び 相互の関わりと関係づくり 集団における経験と育ち 環境の理解と構成		
5~6	子どもを理解する方法	観察、記録、省察、評価 職員間の連携、保護者との情報の共有		
7~8	子どもの理解に基づく発達援助	発達の課題に応じた援助と関わり 特別な配慮を要する子どもの理解と援助		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子どもの理解と援助		総合評価	100.0%	【準備学習】 自身の子どもの頃の遊びでどんなことをしていたのか振り返っておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育課程総論		こども保育学科/1年	2019/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵(実務経験有)
授業の概要				
<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解し、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を学ぶ。 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。</p> <p>【実務経験】 木曾 真理絵： 幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし指導計画の立て方を伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成について、意義と方法を理解する。 保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)についてその全体構造を理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	保育の計画と評価の基本	カリキュラムの基礎理論(保育課程・教育課程)		
2	〃	計画・実践・記録・省察・評価・改善の過程の循環による保育の質の向上		
3	保育課程	保育計画の変遷と展開 指導計画(長期・短期)		
4	教育課程	教育課程の変遷と展開 指導計画(長期・短期)		
5	子どもの発達過程と指導計画	「発達」についての基礎的理解 発達の特性と発達過程		
6	〃	発達過程を保育現場に生かす		
7~11	保育の計画の作成と展開	保育所保育指針、幼稚園教育要領、用穂連携型認定こども園教育・保育要領 指導案の書き方、留意事項		
12	保育所・幼稚園における保育の評価	保育の記録・省察及び評価の意味		
13	〃	保育日誌とエピソードから読み取る		
14	保育の評価	保育所の自己評価・第三者による評価の意味		
15	実習につなげるために	実習生が作成する指導案について(ポイント)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストを予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育内容総論		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西本 佳代
授業の概要				
<p>保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、擁護と教育が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育過程につなげ、保育の多様な展開に対応できることを目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 保育の全体的構造を知る。 保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 保育の多様な展開について具体的に理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1～2	保育の全体構造と保育内容	歴史的変遷とその社会的背景 保育内容の考え方		
3～6	保育の基本を踏まえた保育内容の展開	養護及び教育の一体的な保育 子どもの主体性を尊重する保育 環境を通して行う保育 生活や遊びによる総合的な保育 個と集団の発達を踏まえた保育 家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育 等		
7～8	保育の多様な展開	長時間の保育 特別な配慮を要する子どもの保育 多文化共生の保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育内容総論		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストを 予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	元木 倫子（実務経験有）
授業の概要				
<p>「子どもの健康」や「子どもの運動遊び」を様々な社会的要因との関係から分析しながら、子どもの全般的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境について理解を深め、子どもの健康に必要な指導・援助の技術・技能を獲得する。</p> <p>【実務経験】 元木 倫子：幼稚園・保育所にて体育指導20年 障害児の体育指導3年 現場経験を活かし、5領域の「健康」について事例を通して伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>5領域の「健康」に記されているねらい・内容などの領域構造を理解する。 就学前段階の運動遊びの指導・援助 基本的な生活習慣の形成及び援助 健康・安全に関する保育活動について学ぶ</p>				
回	テーマ	内容		
1	5領域「健康」	保育所保育指針・幼稚園教育要領 「健康」とは何だろう		
2		年齢に応じたねらいと内容について 子どもにとっての健康		
3	発達	子どもの身体機能の発達 子どもの心の発達 基本的な生活習慣の確立		
4	生活	園生活と遊び 生活環境を整える		
5	安全管理と安全教育	安全管理の必要性 危険とは リスクとハザード 園における子どもの事故・傷害の発生状況 子どもの事故の原因と特徴		
6		安全教育の実際 アレルギーについて		
7	子どもを守る	健康を守るガイドライン 幼児期運動指針 保健計画		
8		感染症ガイドラインと保育者の罹患歴などの確認 食育基本法と食育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストを 予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木曾 真理絵（実務経験有）
授業の概要				
<p>子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。子どもが園生活を通じて、自分が周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる信頼感と、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる「生きる力」について学習する。</p> <p>【実務経験】 木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし、子どもたちの人間関係の構築について伝えると同時に5領域の「人間関係」をみる。</p>				
授業終了時の到達目標				
5領域の一つである「人間関係」を理解する。 ねらいと内容及び意義を事例を通して理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	人間関係の構築	人は、どのようにして人間関係を構築していくのか		
2	コミュニケーションゲームの体験①	非言語的コミュニケーションゲーム		
3	コミュニケーションゲームの体験②	言語的コミュニケーションゲーム		
4	認知バイアス	人間関係構築における認知バイアスについて		
5～7	子どもの事例から読み解く「人間関係」	保育現場における子どもの姿から見られる「人間関係」		
8	DVD	子どもが友達と遊ぶDVDを視聴 子どもの姿から「人間関係」を読み取る		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 人間関係を形成していく上で大切なことを考えておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
環境（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	佐藤 洋美（実務経験有）
授業の概要				
<p>子どもにとっての環境とは、物的環境・人間環境・自然環境などさまざまな環境が相互して育ちに関わっている。保育者と子どもが基本的に安全で心地よく生活する条件を具体的に保育施設の構造・人間関係をもとに考察し、より良い子どもの遊びの空間を創造するための理論・技術を備えた保育士の育成を目的とする。</p> <p>【実務経験】 佐藤 洋美：保育士として23年勤務 副所長として5年 所長として7年 現場経験を活かし 領域「環境」について伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容の構造を理解する。				
回	テーマ	内容		
1～2	社会環境と保育	社会環境とは 社会環境と保育実践		
3～4	文字・数・図形への興味・関心と保育内容「環境」	保育における文字・数・図形に関する学びの位置付けと実際		
5～6	小学校教育との連携と保育内容「環境」	小学校教育と保育 環境の視点と小学校教育		
7～8	子育て支援と保育内容「環境」	子育て支援と環境 子どもの育ちの基礎となる家族や地域社会を生成するために		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと環境		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストで予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言葉（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	立山 映子（実務経験有）
授業の概要				
<p>子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことば感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。</p> <p>【実務経験】 立山 映子：幼稚園教諭として33年勤務 保育士として2年勤務 現場経験を活かし、子どもたちが目にする文化財について事例を通して伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>気になる子どもや日本語を母語としない子どもへの言葉の発達のサポートを理解する。 児童文化財についての理解をする。</p>				
回	テーマ	内容		
1	気になる子どもへの言葉の発達のサポート	言葉の発達の捉え方 言葉の発達の遅れの原因と気づき 発達のサポート		
2	日本語を母語としない子どもの言葉の発達を考える	日本語を母語としない子どもの増加 幼児期の子どもの状況と支援の現状 外国人児童の就学上の課題		
3～4	言葉の発達を促す児童文化財	3歳児未満の児童文化財と言葉の発達 わらべうた、手遊び、おはなし、赤ちゃん絵本、ことば遊び、人形遊びと人形劇		
5～6		3歳時以降の児童文化財と言葉の発達 絵本、紙芝居、幼年文学		
7	言葉を育てる指導と指導計画	3歳児未満の指導計画		
8		3歳時以降の指導計画		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前に児童文化財について調べておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
造形表現（指導法）		こども保育学科/1年	2019/通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	中村 典子
授業の概要				
領域「表現」は子どもの自発的表現力を高め、豊かな感性を育てることをねらいとしている。自然やまわりの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。具体的にはデカルコマニーや玉吹き絵など平面表現のさまざまな方法を取得し、表現技術を高める				
授業終了時の到達目標				
5領域にある「表現」を基礎に、こどもの造形活動の技法を習得する。造形教育の目標と内容の理解。				
回	テーマ	内容		
1～ 2	幼児教育の目標と内容	療育の「表現」の指導の視点 表現と環境、表現と保育		
3～ 4	幼児の造形表現の発達と特徴	基礎的な能力の形成		
5～ 6	〃	描く、作る 表現の発達過程		
7～ 8	〃	幼児の絵画表現の特徴		
9～ 10	技法	デカルコマニー、玉吹き絵、にじみ絵		
11～ 12	〃	すたっぴんぐ、マーブリング、ビー玉ころがし		
13～ 14	〃	ローラー遊び、ステンシル、スクラッチ、フロッタージュ		
15	幼児造形表現の指導法	指導の展開（環境づくり、題材設定、導入、助言、評価）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前に表現技法について調べておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と音楽表現		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木 佳美(実務経験有)
授業の概要				
<p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。和音感、リズム感などピアノの力をつける。その上で、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開などにも視点を向けていく。</p> <p>【実務経験】 鈴木 佳美：障害児・障害者施設にて音楽療法2年 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法を伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>音楽の楽典の基礎を理解する。 こどもの発達過程から捉える。 ピアノの技術を向上させる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	音楽	子どもにとっての音楽とは		
2	楽典	基礎的な楽典①とピアノ		
3~ 8	ピアノを弾く	和音感、リズム感 各自のレベルに合わせて童謡曲を弾く 曲に合わせてリズム遊びなど		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にピアノの練習をする。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と言葉		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	立山 映子(実務経験有)
授業の概要				
<p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞くとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。</p> <p>【実務経験】 立山 映子：幼稚園教諭として33年勤務 保育士として2年勤務 現場経験を活かし、子どもたちが目にする文化財について事例を通して伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>言葉の発達過程について理解する。 領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	言葉とは何か、言葉の発達	言葉をめぐるワークショップ 言葉の獲得についての理論と過程		
2	0歳児の言葉	乳児中心の生活と関わりを通じた言葉の獲得 豊かな関わりを育む保育環境		
3	1歳児の言葉	言葉を使ったコミュニケーションの始まり 言葉の獲得と人との関わり		
4	2歳児の言葉	2歳児の言葉の発達 対話的コミュニケーションを支える保育の場		
5	3歳児の言葉	3歳児の特徴 日常的な園生活の中で育まれる言葉		
6	4歳児の言葉	保育者との信頼関係を築く クラスの皆で話を聞くということは 自意識を持つ頃 友達関係の広がりの中で		
7	5歳児の言葉	5歳児の言葉の特徴 文字への興味関心 小学校との連携		
8	領域「言葉」のねらい及び内容を理解する	保育内容領域「言葉」 領域「言葉」と保育実践とのつながり		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 資料配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストを 予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育 I		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代(実務経験有)
授業の概要				
<p>乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p> <p>【実務経験】 西原 和代： 看護師・助産師として4年勤務 現場経験を通して、乳児保育について事例を通して伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</p>				
回	テーマ	内 容		
1～ 2	乳児保育の意義・目的と役割	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 乳児保育の役割と機能、養護及び教育		
3～ 6	乳児保育の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 保育所、保育所以外、家庭的保育等における乳児保育 3歳児未満とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場		
7～ 9	3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳児未満児の生活と環境、遊びと環境 3歳以上児へ移行する時期の保育 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた援助、関わりや配慮		
10～ 12	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 自治体や地域の関係機関等との連携・協働		
13～ 15	練習	おむつ交換・授乳・調乳・沐浴等		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
乳児保育		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前に3歳未満児に対する関わりについて予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		こども保育学科/1年	2019/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	木曾 真理絵（実務経験有）
授業の概要				
<p>保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>【実務経験】 木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 保育現場の経験を活かして実習指導を行う。</p> <p>実習先の各指導担当教員 保育士 保育現場で子どもたちの姿を通して指導を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
保育所での生活を体験することで、その位置づけを体験する。				
回	テーマ	内容		
1～2	保育所の役割と機能	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 保育所保育指針に基づく保育の展開		
3～41	子どもの理解、保育内容・保育環境 保育の計画・観察・記録 専門職としての保育士の役割と職業倫理	子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解、子どもへの援助や関わり 保育の計画に基づく保育内容、子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境、健康と安全 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 記録に基づく省察・自己評価 保育士の業務内容、庄印鑑の連携・協働		
42～45	責任実習	全日実習・研究保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「保育実習事前事後指導」		総合評価	100.0%	評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。 【準備学習】 実習の手引きを熟読し、教材等の準備をしておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習 I (施設)		こども保育学科/1年	2019/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	尾崎 桃子(実務経験有)
授業の概要				
<p>児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児(者)との関わりを通して子ども・利用児(者)への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児(者)の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育(援助)の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p> <p>【実務経験】 尾崎 桃子：社会福祉士・介護福祉士として5年勤務 現場経験を活かして、大人の障害者支援の仕方を伝える。</p> <p>実習先の指導担当者は、保育士として勤務しており、現場の中で、保育士としての業務等の指導を行う。</p>				
授業終了時の到達目標				
職員や児童(利用者)と生活を共にし、実習生自身がさまざまな働きかけを行うことに・より、自らの児童観・保育観、あるいはそれを取り巻く現代の家庭や社会についての考え方を深め保育士としての自覚を得る。				
回	テーマ	内容		
1~2	施設の役割と機能	施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割		
3~45	子ども・利用者理解 施設における子ども・利用者の生活と環境 計画と記録 専門職としての保育士の役割と倫理	子ども・利用者の観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかわり 計画に基づく活動や援助、心身の状態に応じた生活と対応、活動と環境 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用、業務内容、役割分担と連携		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。 【準備学習】 実習の手引きを熟読し、教材等の準備しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導 I		こども保育学科/1年	2019/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵(実務経験有)
授業の概要				
<p>保育所・施設実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。保育所・施設の子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p> <p>【実務経験】 木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 保育現場の経験を活かして 実習事前の準備についてつたえる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実習事前準備を行う。(指導案の立て方・日誌の書き方・子どもの見方・保育園の業務内容について)保育技術を学ぶ。(手遊び・童謡・ペープサートなど)</p>				
回	テーマ	内容		
1	保育実習の意義と目的	保育実習とは何か、基礎・基本から学ぶ。		
2	保育所	保育所の保育について、特徴について学ぶ。		
3	保育所保育指針	保育所保育指針について学ぶ。		
4~ 5	こどもの発達過程について	0歳児(6ヶ月頃まで)・0歳児(6ヶ月頃から)1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児各年齢の発達過程を学ぶ。		
6~ 7	実習の心構え・留意事項 実習の段階	充実した実習にするための心構えや留意事項を学ぶとともに、実習の各段階で考慮すべき視点を学ぶ。		
8	保育実習の内容と方法	乳児保育実習の実際 部分実習・観察実習・参加実習・研究保育など各実習の特徴や注意点などを学ぶ。		
9	実習記録	記録と指導案の書き方について		
10~ 11	施設実習の内容と課題の明確化	施設実習の内容、施設の種別についての理解 活動内容について		
12	実習に際しての留意事項	子どもの人権 プライバシーの保護と守秘義務		
13~ 14	施設実習の計画と記録	施設実習の計画作成及び記録作成における留意点 観察の必要性について		
15	実習事後の振り返り	実習の振り返りと自己の課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針 保育所保育指針 解説書 プリント		総合評価	100.0%	【準備学習】 プリントの実習に対する心構え等を熟読しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児の心理学		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	山北 泰子(実務経験有)
授業の概要				
<p>子どもたちがどのようにこの世界を理解しようとしているのか、またその理解の仕方や変化や発達について学ぶ。子どもとおとなの視点の違いを知り、子どものありのままの姿を受け止めて理解する力を養う。また、保育者としての適切な子どもへの関わり方を学ぶ。</p> <p>【実務経験】 山北 泰子： 幼稚園教諭として20年勤務 副園長4年 園長4年 現場経験を活かして幼児の心理学について伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>子どもが成長していく上でどのように回りの世界を受け入れ理解しようとしているのか理解する。子どもの思考と大人の思考との違いについて理解する。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	心理学とは	心理学とは		
2	保育者に求められること	保育と心理学 幼児と心理学		
3	心の働きを知る	言葉とコミュニケーション 言葉の獲得		
4	覚えること	記憶のしくみ		
5~ 6	考えること	思考・知能・創造性		
7	発達と心の問題への対応	発達障害を知る		
8		発達障害児を伸ばす 心の問題を理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【準備学習】 子どもの思考について事前学習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	鈴木 佳美（実務経験有）
授業の概要				
<p>幼児教育における音楽表現の基礎知識を習得する。保育活動における音楽の役割を理解し、子どもの音楽表現活動に関する知識及び、指導、援助に関する知識・技能を学習する。</p> <p>【実務経験】 鈴木 佳美：障害児・障害者施設にて音楽療法2年 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法を伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>リズム感を学ぶ。 音楽に合わせて表現することを楽しむ。</p>				
回	テーマ	内容		
1	リズムと拍子	リズムを読む 拍子を感じる		
2	音階と調	音階と調について		
3	和音と伴奏	主要3和音		
4		いろいろな伴奏		
5	アレンジ	アレンジ方法を知る		
6	楽器	カスタネット・タンバリン・ピアニカ・ピアノ ハーモニカ・トライアングル・木琴・鉄琴 小太鼓・大太鼓・ウッドブロックなど		
7	合奏	子どもが演奏する合奏を弾く①		
8		子どもが演奏する合奏を弾く②		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 楽器の名前は確認しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
劇あそび（指導法）		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	山北 泰子（実務経験有）
授業の概要				
<p>子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、劇遊びやごっこ遊びなどの経験を豊かにし言葉の表現力を高める指導について工夫することができるようにする。</p> <p>【実務経験】 山北 泰子： 幼稚園教諭として20年勤務 副園長4年 園長4年 現場経験を活かして幼児が喜ぶ劇あそびについて伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>「子どもの成長・発達と「ことばの習得」および「児童文化財」の関係について理解できる。 絵本の役割を理解し、絵本ごとの特色を踏まえた読み聞かせができる。 おはなしの種類と特徴が理解できる。 パネルシアターやペープサート等の保育文化財の役割が理解できる。 子どもたちの人形遊びの種類を把握し、それを活かした活動ができる。</p>				
回	テーマ	内容		
1	子どもの成長・発達、ことばの習得、児童文化財	児童文化財とは、「子どもの成長・発達」と「ことばの習得」及び「児童文化財」		
2	絵本	絵本とは、保育の現場で絵本を読むことの意義、絵本の種類と選び方		
3	パネルシアター ペープサート	パネルシアターとペープサート等の文化財について		
4	おはなし	おはなしとは、おはなしの種類と選び方		
5～ 8	劇あそび	グループに分かれて劇あそびを立案する。 小道具作成～発表まで		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと言語表現（吉田晃高）		総合評価	100.0%	【準備学習】 製作物の準備をおこなう。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と人間関係		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木曾 真理絵(実務経験有)
授業の概要				
<p>乳幼児期の発達と領域「人間関係」を理解する。子どもと保育者の関わり、遊びの中の人との関わり、生活を通して育つ人との関わりを学ぶ。 個と集団の中での育ちについて考察し、親しい人との体験が生きる原動力となり、子ども一人ひとりの成長を促していることを理解する。</p> <p>【実務経験】 木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし、子どもたちの人間関係の構築について伝えると同時に5領域の「人間関係」をみる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>「人間関係」について理解する。 人間関係の構築について理解し、人間関係を育むための援助と工夫を考える。</p>				
回	テーマ	内容		
1	5領域における「人間関係」	幼稚園教育要領と保育所保育指針における5領域「人間関係」について		
2	人間関係の構築	人間関係の心理学の基礎①		
3		人間関係の心理学の基礎②		
4	暖かな人間関係を育むための援助と工夫	幼児にとって暖かな人間関係とは		
5		暖かな人間関係を育むための教師・保育者の役割		
6		人間関係を育む「環境構成」とは		
7	人との関わりに関する領域「人間関係」	ねらい		
8		内容		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト プリント		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストを予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と環境		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	佐藤 洋美(実務経験有)

授業の概要

乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。子どもを取り巻く環境の変化を理解し、子どもの発達と環境の関係性について学ぶ。子どもたちが、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために保育者がどのような関わり、環境を構成する必要があるのかを学ぶ。

【実務経験】 佐藤 洋美：保育士として23年勤務
副所長として5年 所長として7年
現場経験を活かし 領域「環境」について伝える。

授業終了時の到達目標

乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。
子どもを取り巻く環境の変化を理解し、子どもの発達と環境の関係性について学ぶ。

回	テーマ	内容		
1	保育内容「環境」について	保育内容「環境」の概要		
2～3	園内の環境と保育	園内の環境とは 園内の環境の実際		
4～6	園庭の環境と保育	園庭の環境とは 園庭の環境の実際		
7～8	自然環境と保育	自然環境とは 自然環境と保育実践		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト プリント		総合評価	100.0%	【準備学習】 事前にテキストで 予習しておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育方法論		こども保育学科/1年	2019/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵(実務経験有)
授業の概要				
<p>保育や教育に関する様々なトピックを検討することを通して、保育者という職務のあり方の本質的な理解を深めること、そして、今日必要とされる保育者像についての考察を深める。そのような中で、保育者としての役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣を深める。</p> <p>【実務経験】木曾 真理絵；幼稚園教諭として10年勤務 保育現場における保育形態のいろいろについて伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>教育方法の歴史的変遷を理解する。 現代の教育方法について理解する。 幼児教育の教育方法について理解する。</p>				
回	テーマ	内容		
1	教育方法の理論	教育方法の学問領域とその研究課題		
2	''	教育目標や教育内容との関係		
3	教育方法の歴史的展開	西欧の教育方法史		
4	''	近代・現代の教育方法		
5	''	教育工学的教育方法		
6	日本の教育方法の変遷	江戸時代の寺子屋の学びの特徴		
7	''	明治以降から戦前まで		
8	''	昭和20年以降 教育方法の現在的意義		
9	教育メディアの発達と教育技術	子どもの学びを支える教育メディアの意義		
10	授業の概念と様々な学習形態	教材単元と経緯単元		
11	''	指導の個別化と学習の個性化 教育方法と生徒指導		
12	''	様々な学習方法と形態 協同学習とは何か		
13	学力観	学力観 生きる力を育むために		
14~ 15	幼児教育の方法	保育方法と形態 近代以降の保育方法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育方法論		総合評価	100.0%	【準備学習】 自分が思う保育者像を考えておく。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習事前事後指導 I		こども保育学科/1年	2019/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	木曾 真理絵(実務経験有)
授業の概要				
教育実習の事前・事後指導として、幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解したり、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合することにより教育実習に対する意欲や課題意識を高めることをねらいとする。				
【実務経験】 木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし、教育実習前の準備について心構えを説く。				
授業終了時の到達目標				
2年次に教育実習に行く前に、保育所と幼稚園の違いを理解し、幼稚園における保育内容・指導計画について理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	教育実習とは	教育実習とは(幼稚園)		
2	幼稚園教育要領	幼稚園教育要領		
3	指導計画について	教育課程		
4	日誌の記入の仕方	観察・日誌・考察について		
5	実習における注意事項	実習における 注意事項1		
6	実習における注意事項	実習における 注意事項2		
7	指導案	研究保育について・指導案の書き方		
8	"	指導案の書き方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【準備学習】 実習の手引きを熟読しておく。また、実習で使用する教材の準備を行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習 I		こども保育学科/1年	2019/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(30時間)	必須	木曾真理絵 元木倫子 (実務経験有)
授業の概要				
<p>実践的体験を通して保育技術を学ぶ。 協力や相談しながら、自分の意見が言えるようになるために、いろいろな経験をする。</p> <p>【実務経験】木曾 真理絵：幼稚園教諭として10年勤務 現場の子ども達から学んだ「遊びの保育技術」について伝える。</p> <p>元木 倫子：幼稚園・保育所にて体育指導25年 と 障害児の体育指導3年 身体を動かす遊びについて経験を活かして伝える。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>協力しながら自分の意見が言えるようになる。 保育技術を実践経験を通して身につける。</p>				
回	テーマ	内 容		
1	保育演習とは	保育演習で何を学ぶのか		
2～ 16	保育実践演習	<p>保育現場で使用できる実践技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手遊びや折り紙、あやとりなどの保育技術 ・教材作り(ペープサート・手袋シアター・パネルシアターなど) ・製作過程における保育技術のポイント ・作品を使って練習し発表 ・子どもたちと作る作品の場合には、どのような点に配慮する必要があるのかを捉えられる目を育てる。 ・あなかれ保育園にて保育を立案し発表 ・振り返りと今後の課題 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布 手遊び百科		総合評価	100.0%	【準備学習】 子どもたちが喜ぶ教材を調べる。事前に準備物はそろえる。